

令和6年度 第19回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和6年5月30日（木）

2 会議の場所

仙台法務局名取出張所2階 名取市教育委員会 会議室4

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 荒井 龍弥

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 長澤 裕司

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

別紙のとおり

7 議題

(1) コミュニティ・スクールについて

(2) 史跡雷神山古墳保存活用計画について

8 開会時間

午前10時00分

9 会議の概要

山家教育部次長兼教育総務課長

ただいまより第19回総合教育会議を開催いたします。

初めに資料の確認ですが、本日、次第と名簿を配布しております。また、事前にお配りしておりますコミュニティ・スクールについての資料と雷神山古墳保存活用計画については、ご持参いただいておりますでしょうか。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。
それでは、開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は大変お忙しいところ、第 19 回教育会議に瀧澤教育長はじめ教育委員の皆様にお集まりいただきありがとうございます。

今日のテーマは、コミュニティ・スクールについてと史跡雷神山古墳保存活用計画についてとなっております。

コミュニティ・スクールについては、令和 6 年度から館腰小学校においてモデル的に事業がスタートしておりますが、これまでの地域学校協働活動とあわせて、学校運営として、また、地域づくりの改善等に向けて、どういったことがあるのかということをお話できればと思っております。また、雷神山古墳の保存活用計画につきましても、現在策定中ではありますが、本市の歴史、文化のシンボルであります雷神山古墳、どのように保存していきながら、また、未来に向けての活用継続について意見交換していきたいと思っております。

先月 4 月に雷神山古墳マルシェを初めて開催しており、今後も、多くの方が雷神山古墳という歴史遺産に触れる機会を設けていけたらと思っております。

本日はぜひ皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく願います。

山家教育部次長兼教育総務課長

それでは、次第 3 の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第 4 条第 3 項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。山田市長、よろしく願います。

山田市長

それでは、次第に沿って進めてまいります。本日の議題 (1) コミュニティ・スクールについてであります。事務局より資料に基づき説明をお願いいたします。

高橋教育部理事兼学校教育課長

それでは、資料に基づき、ご説明申し上げます。

1 ページをご覧ください。

本日の説明は、1、コミュニティ・スクールとは何か、2、なぜコミュニティ・スクールを導入するのか、3、コミュニティ・スクールの仕組み、4、地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの関係、5、館腰小学校コミュニティ・スクールの今年度の予定、についてお話をさせていただきます。

2 ページをご覧ください。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度、または学校運営協議会制度を導入した学校のこと、学校の運営と必要な支援について、学校や保護者、地域の大人で話し合っ

ていく協議会である学校のことです。

子供の教育を学校だけに任せるのではなく、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することで、学校の地域も当事者意識を持って子供の成長を支えます。

育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを共有することで、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組む、地域とともにある学校づくりへの転換を図るための仕組みとなっています。

現在、国や文部科学省では、コミュニティ・スクールの導入を進めており、平成29年には、法律が改正され、設置が努力義務化されております。

3ページをお開きください。

ではなぜコミュニティ・スクールの導入を国が進めているのか、という点についてご説明いたします。

現在、日本の社会では、少子高齢化や人口減少、AIの進展を初めとし、様々な問題が叫ばれています。

学校でも、個別最適な学びの提供や、ICT機器の活用、学校における働き方改革等の課題があります。

また、子供たちにとっては、体験活動の不足、活躍の場の不足、不登校の増加といった課題があります。

館腰地区では、各種ボランティアの皆様のご協力を得て、様々な体験活動や学習が行われていますが、一般的な傾向として、少子高齢化、担い手不足や、地域防災、そして子育ての孤立等、地域の課題が深刻化し、学校を取り巻く社会のあり方も予測不可能になっています。それらを受け、これからの子供たちに求められる力も大きく変わってきています。

名取市でも、それらの課題や困難を、コミュニティ・スクールを導入することで、地域全体で解決に取り組んでいきたいと考えています。

そして、館腰地区のように、地域の方から温かく力強い協力をいただいている地区につきましても、コミュニティ・スクールの導入によって、さらに連携を深め、充実した取り組みにしていきたいと考えております。

4ページをお開きください。

では、実際に館腰小学校に導入するコミュニティ・スクールの仕組みについて説明いたします。

主な働きについて、1つ目は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認することがございます。そして2つ目は、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができること。そして3つ目は、教職員の任用について、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができるということです。そして四つ目として、学校の運営状況等について評価を行います。

これまで校長の求めに応じて、個人的に意見を述べてきた学校評議委員の体制を段階的に発展させ、学校運営協議会では、子供たちや地域の未来に向けて、学校、家庭、地域が社会総がかりで当事者意識を持って取り組めるよう、一定の権限と責任を持ち、合議体として学校運営そのものに意見ができるようになります。

5 ページをお開きください。

コミュニティ・スクールを導入する予算としては3つ挙げられます。

1つ目は、組織的、継続的な体制の構築です。校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって、地域との組織的な連携、協働体制がそのまま継続できる、持続可能な仕組みとなっています。

2つ目は、子供たちを育てる当事者意識を地域や家庭に持ってもらい、役割分担ができることです。校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して、関係者が皆、当事者意識を持ち、役割分担をもって、連携、協働による取り組みができます。

そして3つ目は、目標、ビジョンを共有した共同活動です。これまでも地域学校協働本部には学校と連携し、様々な取り組みをしていただいております。これからは、学校運営協議会や熟議の場を通して、子供たちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子供を育てていくのか、そして何を実現していくのか、という目標、ビジョンを共有し、さらに連携を図っていけるものと考えております。

6 ページをお開きください。

ここで、地域学校協働本部との連携についてお話をいたします。

名取市では、すでに地域学校協働本部が設置され、子供たちのよりよい成長、地域づくりのために熱心に活動していただいております。

地域学校協働本部では、地域の人々や団体による緩やかなネットワークのもと、学校を核とした地域づくりの視点で、地域学校協働活動の推進、地域の教育力の向上、地域の特色を生かした活動の推進を図っていただいております。

学校運営協議会と地域学校協働本部が連携していくことで、どんな子供を育てたいかというねらいや課題を共有し、子供や地域にとってプラスになる協働活動を実施していけると考えております。また、地域をよく知るコーディネーターによる情報提供は大変貴重なものと考えております。

7 ページをお開きください。

こちらは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することの大切さ、自転車に例えて説明したものとなっております。

学校運営協議会は前輪、地域学校協働本部が後輪になり、子供たちが自転車をこいで進んでいくという図です。校長は、ハンドル、ブレーキで進む方向の舵取りをしています。みんなで一緒になって、学校や地域の共通の目標に向かって取り組んでいかないと進まないということが表されています。

8 ページをお開きください。

このようなコミュニティ・スクールの取り組みで広がる魅力、そして期待されることは、まず家庭にとっては、学校や地域に対する理解、地域の中での安心感、人間関係の構築が期待されます。

地域にとっては、生きがいや自己有用感の獲得、地域ネットワークの形成、防犯防災体制の構築が期待されます。そして学校にとっては、地域の人々の理解と協力、地域人材を活用

した教育活動の充実、そして子供と向き合う時間の確保という魅力が生まれると考えています。

9 ページをお開きください。

そのような魅力がひいては子供たちにとって、学びや体験活動の充実、自己肯定感や、他人を思いやる心の育成、防犯防災等の対策による安心、安全な生活の実現、そして地域の担い手としての自覚の高まりに繋がることが期待できます。

10 ページをお開きください。

最後に、館腰小学校の取り組みについてご説明いたします。

第1回の学校運営協議会を昨日5月29日実施いたしました。初めに、委員による授業参観を行い、その後、学校運営協議会として、学校経営の説明と役割分担の確認、そして自己紹介とワークショップを行いました。

協議の結果、委員長には、学校運営共同本部長をされている疋田運照様が就かれることになりました。

また、副委員長には館腰コミュニティ会長の山口實様が就かれることになりました。

その後行われたワークショップの内容は、館腰地区のよさ、生かしたいところ、館腰小の子どもたちのいいところ、伸ばしたいところ、そして、子供たちにどのようになってほしいか、どうなるかいいか、といった点について話し合いを行いました。

11 ページ、12 ページには、今年度の今後の予定について紹介をさせていただきました。

私からの説明は以上です。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

今、説明のあった内容について、コミュニティ・スクールについて確認したいことや、館腰小学校での今後の取組に向けたご提案、また、課題と思われる部分など、ご意見をいただければと思います。

洞口委員

質問ですが、館腰小学校の学校運営協議会の役員は何人になりますか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

校長も参加しておりますが、校長を含めて全部で13名となっております。

山田市長

委員の肩書などはどのようになっているか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

まず、学校運営協議会の本部長をされている方、そして、館腰コミュニティ会長をされている方、そして本郷の契約会長、堀内の契約会長、民生児童委員の方、そして学校運営共同

本部のコーディネーターをされている方は3名、そして、館腰小学校のPTA会長、学識経験者として、尚綱学院大学の職員の方、そして公民館長。さらに館腰小学校の校長、というような構成になっております。

洞口委員

PTAの方からは会長のみですが、例えば、いま子供たちを育てている、PTA会員の中から選抜するような形も良いと思います。若いお父さんやお母さん達の意見というのものもあるでしょうから、今話をお聞きしてやはり少し年配の方々が多いような感じはしますが、これから長くやっていくのに後継者というのもありますので、そういう点でも、館腰小は今年度が最初で難しいのかなと思っております。だんだん変わっていくと思いますが。

山田市長

おおよその人数の目安であったり上限だったりのものがあるのですか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

15人以内で組織するというので、規則の中に示されております。

山田市長

15以内で今何名ですか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

13名です。

山田市長

洞口委員からご指摘あったように、現役世代、保護者世代で、一般の方をどう選ぶかという問題はありますが、例えば会長が指名するなど、一般のいわゆる子育て世代のお父さんお母さんに参加していただくという視点も大事じゃないかというご指摘だったと思います。

高橋教育部理事兼学校教育課長

ありがとうございます。

山田市長

浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

コミュニティ・スクール、名取市で、第1弾で館腰小学校ということですが、それ以前に始めている地域学校協働活動の方が、きちんとうまくいっているのかなという部分が、それは、後継者問題、ただいま洞口委員がおっしゃったように、早いうちから後継者のこと

を考えながらの人選が必要じゃないか、だから PTA の中から現役世代を入れた方がよいのではないかということで、学校協働活動の方から、より 1 歩進んだシステムのコミュニティ・スクールになっていくに当たって、地域学校協働活動の方がきちんとうまくいっていて、後継者の方もきちんを見込めているような活動がなされているのかなというのが、ちょっと心配なところではあるというように考えています。

PTA の加入問題もいろいろ起きていますが、結局その PTA がなかなかうまく機能しなくなってきているので、地域学校協働活動というものを踏み込むようになったのかな、と個人的な考えとしては思ったりしていました。

実際、私が PTA 活動に関わっていたのは、先生方と一緒に子供たちに学校だけではできない体験などもできる手伝いができるばというのでやっていた感覚はありましたけれども、PTA 会議の中でも、その感覚をお持ちでない方もやはりたくさんいらっしゃって、運営が難しかったわけなので、それを地域の方たちだけに、お願いするのはやはりちょっと違うのかなというのもあるので、ぜひ若い方もいて、現役の方も入って、組織というものの中身を実際に理解して、一部の人だけが知っていることではなくて、もっとその周知、地域全体がやっていることをきちんとわかるように、ただそのためには、当然、広報にも載っていたりはしますし、地域としても出すのでしょうが、広報などですらなかなかちゃんと読んでいらっしゃらない方がいるのも事実で、どういうふうに周知をしていくかっていうのも、難しい問題なのかなと、やってくださっている方たちが見て、現役世代、忙しいから関われなかったけれども、自分たちが次の番だと思えるような、見える、そして、できる範囲の活動になっていけばいいのかなというふうに考えていました。

山田市長

はい、ありがとうございます。

1 点目は、その地域学校協働活動の館腰地区での現状がどうかということ。2 点目は、持続可能性という観点から、現役世代の保護者を協議会の中に取り込んで、世代交代も含めて視野に入れてやっていくべきではないかということですが、まずは地域学校協働活動の現状についてお願いします。

佐藤生涯学習課長

館腰地区の地域学校協働活動につきましては、令和 3 年度に本部を設置しておりまして、4 年目となります。

現状から言いますと、順調に活動の方を進めていただいているというような状況で、ただ浅野委員さんおっしゃった通りですね、名取市の地域学校協働本部につきましては、令和元年から始まって今年で 6 年目というようなことで、小中学校区全部に設置してはいるのですが、なかなかその後継者問題というところで、後がないというような話も聞こえてはきております。ただ、現状では、どこのコーディネーターもパワフルな方がやってらっしゃいますので、うまくいっているというふうに捉えております。

山田市長

地域学校協働活動自体も今言った後継者の問題、それから、一部の方は一生懸命やっているけども地域全体に、お便りも出しているのですが、他の地区からも実は何やっているかわからないっていう方もおられ、やっぱり周知っていうのはすごく難しいけれども頑張っていかなければならないと思っております。

今のお話を聞いてどうですか。

浅野委員

とにかく、その知らない人たちがいない状態じゃないと、次にやる人が何をさせられるの、ではなくて、そういうことがやれる世代になった。実際、私もやって、できているかというところでできていません。義務教育のうちには PTA を何とか頑張りましたけれども、その後のまだ子育てが終わってない間の、正直言うとその教育費の捻出のために働かなければならないことがメインになっていると、それがなかなかできない。でもそこが終わったら、子供子育てを地域の皆さんにさせていただいたから、それを返そうという気持ちがあるように、知ってもらいたい、やっていることがわかってもらったら、次は私だねってこう思ってもらえるよう活動がわかるようにしたい。

洞口委員

よろしいですか。館腰小学校運営協議会の今の大きなメンバーで、半数は多いと思うのですが、子供会の班長は毎年のように変わるようですが、そういう方々にも、全員はちょっと多いと思いますが、協力してもらおう。

また、一中の地区 PTA ですか、そちらの方も班長が何人かいらっしゃると思うので、そういう方々も 1 名ないし 2 名を入れて、今後 1 年か 2 年単位で皆さん変わると思いますから、そういうふうにして次に次になって、伝えていくのも 1 つの案かなと思っております。

以上です。

山田市長

PTA なら PTA の役職に入れておいて、人が変わっていくということですね。ありがとうございます。

その他、ありますか。

長澤委員どうでしょうか。

長澤委員

今、浅野委員、洞口委員が言われた通りだと思うのですが、やはり、おらほの学校だっというふうには地域の方、保護者の方々はそう思っている方も多いと思うのですが、そういった、やはり学校であれば、地域の方々もぜひ学校のためにというふうになると思うので、本当に啓発に尽きるのだろうなというふうには思います。地域と学校が、やはりステークホルダー、利害関係者なんだというところをもっと啓発、周知していただければ

と思います。

あと、具体的に、昨日立ち上がったばかりなのですが、具体的にどういったアクションを起こしていくのかというところの構想をどのようにお考えなのか、お伺いしたいなと思います。

山田市長

具体のアクションということで、現段階で考えておられることはありますか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

1 つはですね、雷神山古墳を生かした活動をしたいというようなイメージは持っているというに伺っております。ただですね、コミュニティ・スクールについて、先ほど説明させていただいた通り、熟議をしていきながら、どのような願いを持っていくのか、そして、そのためにどんな活動をしていくのか、またはそれに何が必要なのかといったことについても、時間をかけてじっくりと話し合う中で、自分たちで作っていくということが大変重要なものだというふうに認識をしております。

ですので、今、イメージとして雷神山のことをお考えになっているということをお伝えしましたが、それに拘ることなく、これからの、まさにこの熟議によってそれが作られていくものなのかなというふうに考え、あと、もう 1 点なのですが、今の広報というお話をいただきましたけれども、資料の 11 ページをご覧くださいと思います。

今年度の予定、これはまだ大まかな予定でしかないのですけれども、一応学校の方でも、やはりこの活動について地域の方々、保護者に知っていただくということが、持続可能な取り組みしていく上で、大変重要だというようなことは認識されております。ですので、それについても、熟議の項目として設定していただいて、これも例えば教育委員会がこうしてくださいということではなく、必要なものをどのようにやっていくのかということも、委員の中で熟議を通して考えていくということで、今計画していると伺っております。

山田市長

今の説明でよろしいですか。

長澤委員

はい、ありがとうございます。

山田市長

地域の皆さんもさることながら、初めてのことでね、校長先生がこれをどういう形で進めていくかということも大きなポイントになると思われます。

その他ありますでしょうか、荒井委員。

荒井教育長職務代行委員

長澤先生がおっしゃったようなところが大事なのかと思います。では教育委員会として何ができるかなど、自転車の絵で言うと電動アシストの部分とは何だろうっていうことを考えると、確かに1つは周知と、それから啓発という、そういったところがあるかと思いますがけれども、さらに他のところでどんなことやっているかなというふうな、情報提供は多分こちらの役割なのかなというふうに感じております。

採択するかどうかは、それぞれ協議会次第だと思いますが、こんなことをやっているところもあるよ、ああいうことをやっているのだなというものがあると考えやすいのではないかと考えた次第であります。

山田市長

周知なり情報提供は、教育委員会なり市行政の役割じゃないかということでしたが、役割分担しっかりしてやっていってください。

今の段階で何か提供できるような情報はお持ちですか。

高橋教育部理事兼学校教育課長

市外で既にコミュニティ・スクール実施しているところがございますので、そこでの取り組みについてはすでに学校の方には情報提供しております。

また、具体的なものが出てきた場合には、それについてまた調べて情報提供していきたいと考えております。

山田市長

教育長、これまでの話を受けてどうでしょうか。

瀧澤教育長

名取としても初めてで、教育委員会の関わりについても手探りのところがありますけれども、私も大分前ですけど館腰小に勤務したことがあり、ちょうどその時期、全国で不審者により子供が被害に遭う事件が続発して、校長からの指示で見守り活動を地域の人をお願いしたことがありました。

腕章を用意しましたが、確か100個用意したのが、あっという間になくなって、200人ぐらいの方が手を挙げてくれました。地域の人達は、館腰地区だけではないと思いますが、学校に関心があるし、子供たちと何らかの関わりを持ちたいという思いは皆さん持っていると思います。ですから、そういった思いを、ただ、なかなか積極的に学校に関われない、子供に声かけてなんか逃げられたりすると、不審者に思われたという声も聞きましたが、それをうまく地域の方々の学校への関心とか思いというのを受けとめて、生かしていければいいんじゃないかなというふうに思っています。

それから先ほどの学校教育課長の説明にもありましたが、今まで学校が地域と関わってこなかったかという決してそうではなく、いろいろな形で地域との関わりを大事にしてきましたが、それが単発であったり、校長が変わると方針が変わって途絶えてしまったりという

ようなこともあったので、コミュニティ・スクールがうまく機能していけば、課長の話にもあったように、地域との関わりを継続していけると思います。ただそのためにはさっきいろいろ意見が出た、うまくコミュニティ・スクール自体がきちんと代替わりして、循環していかなければと思います。

あとは学校が校長を中心とした学校があり、PTA があり、名取では地域学校協働活動があり、それに今度コミュニティ・スクールが入ってきたということで、昨日の 1 回目の報告を聞きましたが、みんなで地域を考えて子供たちを育てていこうという良い雰囲気の中で行われたという報告は聞いています。うまくどこかがきちんとコーディネートしていかないと、それぞれが形骸化したり、硬直化したりしてうまく連携がいかないと、それぞれにとってのすごい負担になってしまうと思います。学校運営自体も立ちいかなくなるので、今年度の館腰初めてですので、教育委員会も積極的に関わって、それぞれの関係がうまくいって、先ほど課長が言った自転車の図のように進んでいくようにサポートしていきたいなと思っています。

これからも市長や、それから教育委員の皆様には、いろいろ気がついたことをご指導ご助言いただいでですね、取り組んでいきたいなと考えております。

山田市長

はい。ありがとうございます。

その他で何かコミュニティ・スクールについて、言い忘れたこと、特に言っておきたいことよろしいですか。

5 ページにまとめてあるコミュニティの機能というところがその通りなのかなというふうに思います。

持続可能な形でやっていくためにも、当事者意識、役割分担をしっかりと地域全体で、行政含めてやっていくことと、同じ目標に向かって協働していくということなのだろうと思いますが、これまでいただいた意見等を踏まえて、取り組みをしていただけたらというふうに思います。

それではコミュニティ・スクールについては以上とさせていただきます。

次、議題の(2)「史跡雷神山古墳の保存活用計画について」事務局から説明をお願いします。

鴫崎歴史民俗資料館長

文化・スポーツ課の鴫崎です。失礼ですが着座のままで、ご説明させていただきます。

それでは、「今後の史跡 雷神山古墳の保存・活用について」というテーマで説明させていただきます。

資料 1 ページをお開き下さい。

はじめに、1 の史跡 雷神山古墳の概要について説明いたします。

雷神山古墳は、植松に所在する、全長 168m の東北最大の前方後円墳で、築造された古墳時代はじめ頃では東日本最大クラスの古墳です。昭和 31 年に、北側の小塚古墳とともに国の史

跡に指定され、名取市が管理団体になっています。昭和43年には、周辺の土地も追加指定を受け、約58,000㎡が史跡指定地となっています。その後、昭和51年・52年に実施した発掘調査の結果に基づき、56～62年の7年をかけて史跡公園として整備し、現在に至っています。

2ページをご覧ください。

こちらは、現在の史跡公園の整備図です。上の方が海側で、図にはありませんが、すぐ上の位置に館腰小学校があります。一番外側の赤い太線の内側が「史跡指定地」の範囲になっており、中には、古墳本体をはじめ、史跡を構成する施設などがあります。本史跡は昭和の整備から40年近くの年月が経過しており、史跡指定地内の樹木類の繁茂や、これら施設などの経年劣化等の課題も多く出てきています。

3ページをご覧ください。

次に、2名取市史跡雷神山古墳の保存活用計画の作成について説明します。

こうした課題などの解消も含め、(4)目的の部分に赤字で書きました、①より多くの人を訪れ、愛される史跡にしていく、②本市の歴史文化の大きな特徴の1つでもあります、古墳文化の特徴・魅力を活かした保存・活用を進めていく、③そして、それらを持続的・効果的に取り組めるようにしていく、そのために、昨年度、今年度の2か年事業で、計画の作成を進めております。

4ページをご覧ください。

令和5年度の主な実施内容としては、計画策定委員会を3回開催したほか、現地踏査なども実施しています。委員会では、計画の前半部分に相当する、計画や雷神山古墳の概要など、基礎的な内容を中心に素案を作成しております。また、市民意見の反映のための市民ワークショップを2回開催しました。

5ページをご覧ください。

3市民ワークショップの概要の説明に移ります。

(1)目的のとおり、市民の要望・意見等を反映するため、今年の1月に2回のワークショップを開催しました。1回目は、雷神山古墳について、一定の知識を持つ人を念頭に、郷土史研究会、資料館ボランティア、史跡周辺の区長さん、館腰小学校の先生など、計34名の方にグループワーク等を行って頂きました。また、2回目は、「不特定多数の人を対象に」と言うことで、18歳以上の市民から、無作為で1000名を抽出して参加者を募り、計53名の方々に参加して頂きました。

6ページをご覧ください。

当日は、古墳や計画の概要説明のあと、計画策定委員会の委員さんにファシリテーターを務めて頂きながらグループワークを行い、質問事項1「雷神山古墳の価値や魅力はどこにあるのか？」と、質問事項2「その価値や魅力を、どのように活かすのか？」の2点について意見を出してもらい、グループ毎に発表して頂きました。

7ページをご覧ください。

ワークショップで出された意見等の説明の前に、参考に、計画策定委員会などで出された古墳としての「本質的な価値」の内容を見ておきます。歴史的・学術的な価値や稀少価値のほか、古く巨大な古墳が今現在も残り、歴史文化のシンボルになっていると言ったような「存

在価値」、地域の歴史や古墳、当時の暮らしを知る事ができ、学習活動に役立つなどの「利用価値」に関する①～⑤の5項目が出されています。

8ページをご覧ください。

こちらは、2回のワークショップで出された、質問1「雷神山古墳の価値や魅力はどこにあるか」に関する意見総数215件を、①のピンク色のトーンで示した歴史的・学術的価値や技術的価値に関する意見、②水色で示した存在価値・稀少価値に関する意見、③緑色示した利用価値に関する意見の、3つの価値の種類に分類し、多かった意見の順に、その内容や件数、割合を示したものです。ご覧のとおり、先ほど参考にご紹介した古墳の本質的な価値に対し、上位には、緑色の利用価値に関する意見が多いのが分かります。

9ページをご覧ください。

意見数としては、③の公園や憩いの場としての利用価値に関するものが最も多く、55.3%で半数以上を占め、次に①の歴史的価値24.2%、②存在・稀少価値20.5%の順になっていますが、全体として見れば、公園利用などに関する「利用価値」と、古墳の本質的な価値に関わる①の歴史的価値および②の存在・稀少価値に関する意見を合わせた数は、凡そ半々くらいの割合になっています。利用価値に関する意見では、先ほど言ったように、一般的な公園や憩いの場・空間利用に関するものが多く、古墳の本質的な価値の利用や、まちづくり等をはじめとする「地域資源としての利用価値」に関するものは少数でした。また、花や緑等の自然や、眺望等が良く、整備された広い空間がある点に価値を見出している意見も多くありました。

次に、古墳の本質的な価値に関する意見の内容では、規模や形がきれいなどの表層的な部分に着目した意見が多く、葺石などの具体的な古墳の要素や、背後にある築造に関わった人達の存在や、活動、生活基盤などに踏み込んだ意見は限られていました。

この他、古墳の埋葬者など、未調査で未解明な歴史を「ロマンがある」や「興味を掻き立てる」など、ポジティブに捉えている意見も出されました。

10ページをご覧ください。

こちらは、同じく質問2「雷神山古墳の価値や魅力をどのように活かすか？」に関する意見336件を、(1)古墳本体および指定地の保存や維持管理の方法や在り方、史跡内で行う行為のルール、などについてのもになりますが、ピンク色で示した「保存・管理」に関する意見、(2)学習や教育活動、周知や来訪者増のための情報発信・イベント実施などについてのものですが、水色の「活用」に関する意見、(3)古墳本体の修復などの保存のための整備や、ガイダンス施設や案内施設の設置、見学・周遊ルート整備などの活用のための整備に関するものになりますが、緑色の「整備」に関する意見、(4)人材や担い手の育成、地域や関連する団体、関係機関との連携・協力体制の構築などについてのものですが、オレンジ色の「体制」に関する意見の4つの種類に分類し、多かった意見の順に、意見の内容や件数および割合を示したものです。

11ページをご覧ください。

意見数では、水色の活用、特にソフト事業についての意見が62%と最多で、整備の32%と合わせ94%を占めています。これは質問内容に因るところが大きいとは思いますが、再整備である点も理由の1つかもしれません。そして僅かですが、価値を活かしていくため、どのよう

に「まもるか？」等の保存管理や体制に関する意見もありました。活用の意見の中身では、情報発信が全体の 28%、イベント等の開催が全体の 22.6%で大半を占め、調査研究や教育、学習、他の文化財等との一体的な活用、まちづくりや観光等の地域資源としての活用に関する意見は少数でした。このほか、花や緑等の自然が多く、見晴らしも良く整備された広い空間がある点に価値を見出す意見も出されています。また、整備についての意見には、内外のルート整備や改善、案内サイン整備に関するものが全体の 15%、花木・植栽等の整備が全体の 4%で、一般的な公園利用に伴う利便性向上への意見が多数を占めました。これは、「古墳の場所が分かりにくい」や、植栽の繁茂等で「暗いイメージがある」や、「眺望の妨げになっている」などの課題に対するものと思われる。

12 ページをご覧ください。

最後に 4 今後の予定 についてですが、今年度予定している取り組みとしては、計画策定委員会を 3 回開催し、計画の後半の部分の内容を取りまとめて行きます。その際、10 ページの「意見の種類」の所で説明しました、「保存管理」・「活用」・「整備」・「運営・体制」の 4 つの内容や視点から、今後の取り組みに関する方針や、実施方法などについての基本的な考え方をまとめる予定です。また、計画案がまとまった後、パブリックコメントの実施等も予定しています。今後の計画作成にあたっては、各種委員会やワークショップの意見等を反映させながら、進めて参りたいと考えております。説明は以上になります。

山田市長

ただいま史跡雷神山古墳の概要や、保存活用計画の策定、市民ワークショップでいただいたご意見等について説明がありました。

この説明に対して、ご意見、感想などがあれば伺いたいと思います。

この計画は説明でもありました通り、多くの方が訪れ、愛される史跡にしたいという点が一番の目的になると思います。よりよい計画となるように、委員の皆様からも雷神山古墳に対する思いや今後の活用について、ぜひ計画に盛り込んで欲しいというような内容があれば、お伺いをしたいと思いますがいかがでしょうか。

長澤委員

質問よろしいでしょうか。

山田市長

長澤委員どうぞ。

長澤委員

目的①多くの方が訪れ、愛される史跡にしたいとのことですが、具体的に公共交通機関を使って行けるのでしょうか。

鴫崎歴史民俗資料館長

公共交通機関で最寄りとなりますと、鉄道ではやっぱり館腰駅が最寄り駅になります。そこから歩いていくという形になるかと思いますが、そうしますと、歩くとやはり15分から20分程度の時間が必要になってくるかと思います。

バスについても、ある程度近いところにバス停はありますが、そこから歩いて10分程度かかるということはありません。

決してやはり交通の便が良いところとは言えないなというふうには捉えております。そして、やはり課題で出た、場所がわかりにくいという課題が一番大きいのかなというふうに思っておりますので、そこら辺の解消といいますか、検討しながら、計画に盛り込めるかなと思っております。

山田市長

なとりんくるの発着地点で一番近いのはどこですか。

鶴崎歴史民俗資料館長

雷神山古墳が指定乗降所になっております。

山田市長

なとりんくるの趣旨は、公共交通の空白地帯を無くすという趣旨なので、例えば名取駅に着いたり、仙台空港についた人が、タクシーではなくて、なとりんくるを予約しておけば、400円でここまで来られます。決して不便なところではないということをもまずわかっていただきたいと思います。

それから、飯野坂古墳群と関連させた形で古墳ウォークみたいなことも、イベントとして歴史民俗資料館でやっていますので、関連の資源と一緒にこう見ていただくという、歩いてみるということで、飯野坂古墳群の名取団地のところには駐車場がありますので、車で来られて歩いて回るということもできます。

それから自転車を活用したまちづくりを進める中で、自転車でもこういう歴史遺産を回っていただくようなコース設定も面白いかなと思っています。

そういういろんな可能性を探りながら、ただやはり場所がわかりづらいというのは、市外の人からするとどこなのっていうことがあるので、それをどう伝えていくのかが課題かなと思っております。

長澤委員

ありがとうございました。

山田市長

その他、いかがでしょうか。浅野委員。

浅野委員

古墳の特徴、魅力を活かした保存の方がまず先なのかなと私の中で思っていて、なぜかという、私の娘が確か11歳のときに、中1の時点だと小学校のうちに名取市内の副読本ってありますよね、多分その中に、私は記憶してないですけど、載っているはずで、娘はそれを見ているはずだけれども、中1のときに、東北歴史博物館に企画展を見に行き常設展を見て回っていたら、雷神山古墳の写真があって、これは何って娘に聞かれたから、これ名取にある東北で一番大きな古墳なんだよと言ったら、誰が入っているのと聞かれ、掘ってないからわからない、この上に乗れるんだよと言ったら、人のお墓に乗っていいのかと、とにかく食いつきがすごくて、でも教科書で一応習ったはずだが、記憶にやっぱり残ってなくて、中学生になって自分のおそらく興味関心がどこにあるのかっていうのがわかるような歳になって、だからこそ企画展に行きたいって子供に言われていたわけなんですけど、その子供の興味関心というのが、すごくこうぐっと高くなって来ても、大人になってしまうと、古墳かそうなのくらいで、私は終わってしまっていたものが、そこまでびっくりするものだったんだなと思ったときに、子供の教育に対して、まずすごいものがあるんだよというのがしっかりわかるような、教育に使うためには、まず古墳の特徴とか魅力っていうものをきちんと子供に伝える。子供の関心の度合いってそれぞれ違うので何とも言えないんですけど、実際に行って学んで、触れて体験できる等、カリキュラムの中に入れてもらうと、きっとまた全然違ってくるのかなって思ったんですね。

古墳の特徴を活かした保存の仕方をすれば、そして発信をすれば多くの人を訪れるし、持続的に守っていこうという気持ちもどんどん進んでいくのかなというふうに思いました。

昨日、チャットGPTじゃないんですけど、パソコンにあるそのAIに雷神山古墳の活用どうすればいいと入れてみたら、一般的なものがここに出てきて、マルシェであったりとか、観光に使うとか、そうだよっていうくらいだったんですけど、まずは名取の子供にもっとこうわかるように、今は歴史民俗資料館ができたので、触れやすくなっているのかもしれないんですけど、相互台の方にいるとなかなか行く機会が少ないと思うので、学校で行けるようにしたらいいかなというふうに思いました。

山田市長

教育活動を通じて、価値魅力を子供たちにも伝える方策をとということですが、これについて何か教育委員会の方でありますか。

鴫崎歴史民俗資料館長

雷神山古墳の価値っていうものをうまく伝えられていなかったんじゃないかっていうのが1つありますし、また今年、冒頭でも少し市長からの話にもありました通り、マルシェをやったりとかですね、現地に行って、その大きさだとか、すごさみたいなものを感じてもらえる、そういった機会っていうものが、やはり不足しているなというふうに感じましたので、そしてかつ雷神山古墳だけではなくて、他の飯野坂古墳群ですとか、例えば名取大塚山古墳というのが、同じ愛島丘陵の上にあるんですけども、そちらの古墳時代の中期では、東北最大の古墳になっているんですね、そういう規模の大きい古墳というのは、その丘陵にたくさん

密集してあるっていうところが、すごく名取市の古墳の中では大きな特徴になっております。

ただその辺をうまく含めてですね、単体としての価値、それから古墳全体としての価値、そんなものをうまく実感できるような形で発信してお知らせしていく、そのお知らせするのを古墳だけの分野だけじゃなくて、他分野の関係、不特定多数の人に向けた情報発信とか、取り組みってというのが大事になってくるのかなというふうには思っております。

瀧澤教育長

私の方からよろしいですか。

山田市長

教育長どうぞ。

瀧澤教育長

浅野委員の意見がもっともではないかと思えます。大分昔ですが、私、亘理で6年生担任していたときに、子供たち連れて雷神山に来たことがあります。

100メートルのメジャーで周囲を測らせて、子供たちは古墳を下から見てもわかんないので、その大きさに驚いていたことが今でも記憶しています。

浅野委員の娘さんの頃は歴史民俗資料館がなかったと思えますが、今の6年生は必ず歴史に行きます。感想文を読むと、一番多く子供たちが書いているのはやはり雷神山古墳のことです。10分の1の模型が表にありますし、中にも小さい模型があり、話でも聞くので、そんなに大きな東北最大の古墳が名取にあるなんて知らなかった、もっと知りたい、誰が眠っているんだろうとか、子供たちが感想を書きますが、そこから実際に雷神山に行くというところは、ほとんど活動としてはやっていません。ただ先ほどのコミュニティ・スクールの話でも出ましたが、館腰小で雷神山を活かした教育活動に取り組みたいというような話も出ているので、そんな取り組みも活かしながら、名取の子供たちに、雷神山という名前は多分、頭に入っているかもしれないが、他の学校でも可能な限り実際に現場を見られないかなという思いはあります。

それから一昨年だったと思えますが、コロナ禍の中でしたが、山形の6年生が修学旅行で行き先を変更して、雷神山を見せたいという連絡があったのを、鶴崎館長に案内してもらったことがありました。ただ、それ1回だけでしたが、それから歴史を習う6年生の子供の修学旅行の訪問先として雷神山古墳というのは、かなりインパクトがあるのではないかと思います。

宮城県だと修学旅行は大体、福島の子が会津か、岩手県の子が盛岡周辺に行くので、近隣の山形、福島、岩手あたりの修学旅行で、雷神山を訪れてもらうということも、PRしていけば少し可能性があるのかなというような感じもしています。

ただ、先ほど説明にもあったようにアクセスとかPRとか、案内とか、その辺を今後考えていく必要があるのかなとは思っています。

私としては子供たちにぜひ生で見ても、驚きを体験して欲しいなという感じがします。

山田市長

やはり最大の魅力は大きさですかね。だから、歴史民俗資料館に行って模型を見て、10分の1も見て、その上で現地に行って実感できれば一番いいパターンですね。

今、コミュニティ・スクールのこともありました。修学旅行の件も言っていただきました。仙台国際空港株式会社の社長さんが対談の中でもおっしゃっていて、世界に発信できる観光資源になるということを言っていて、我々そこまで気づいてない。修学旅行も含めて、何か誘致できるぐらいの資源が実は名取にあるので、アンケートにそういうことがほとんど載ってない、先ほど1%の話も出ていましたけど、裏を返せばそれだけの認識しかないものなんだということですが、活かせば大化けする可能性があるのかなと思います。

この魅力、価値がどこにあるのかというのは、もっと掘り下げて、わかりやすい形で発信していくといいのかなと思います。

荒井委員どうぞ。

荒井教育長職務代行委員

今のお話を受けてそういえばと思ったのは、北高でいわゆる地域探検をするのだと今年から言っていて、歴民に伺うプログラムを作っているという話を伺っています。それが雷神山につながるというなと思っていたところです。

それとよく考えてみたら、仁徳天皇陵なんて行ってもわかんないですね。

雷神山古墳のように、あれだけ形ががちりわかって、しかも近くまで行けて、上まで上がれるなんてところは、他の古墳ではないんじゃないかなってというのは、すごく大きな価値なんだなと思います。

山田市長

まず価値は何かというのをちゃんと掘り下げることと、その掘り下げた価値をちゃんと伝えるためにどうしたらいいかということだと思いますが、今回、保存活用計画を作りますが、その次は整備計画につなげていくと思います。この保存活用をこういうふうにしましょう。例えば、大きさなら、大きさが最大の価値の1つだとしたら、それが目で見て実感できるようにするために、どういう整備をしたらいいか、魅力や価値はどこにあるのか、どう活かしていくかということが課題ではないかと思います。

どうですか洞口委員。

洞口委員

まず教育の面で、せっかくこういうものがありますので、小学校の高学年で校外学習の1つとして、入れていったらいいのではないかと考えております。

子供たちもわからないし、その父兄もわからない方がいると思うので、校外学習しますよという案内をすれば、父兄たちもこういうものがあつたんだと知っていただけたと思います。

それから名取市は観光地が少ないということもありますが、バスの利用ルートをいろいろ

変更してみて、市長が言われたように、雷神山古墳を経由するようなコースも作っていただき、観光地にも適するような方向に持っていけたらいいのではないかと考えております。

それから私もしばらく何年も行っていませんが、整備の件で、四季折々の花とか、トイレの整備とか、そういうものがこの頃はどういうふうになっているのか、それから案内版、ガイドンス、例えばボタンを押して説明が聞こえるようになっているのか、先に市長も言われたように、マルシェなども定期的にやっていけば、より多くの市民の方々、市外の方々が知ることができると思います。

もしちょっと贅沢を言うなら、カフェなどもあれば一番いいのかなと感じることがあります。やはり整備をもう少しして、そして荒らされないような作りをしていただきたいなと考えております。

山田市長

現状の整備の課題、何か感じていることはありますか。

鴫崎歴史民俗資料館長

現状の整備の課題で、一番課題になっているのは、やはり植栽の管理の部分大きいのが1つあります。

これは史跡指定地5万平方メートルというかなり広い敷地がありますので、昭和最初の整備のときに植栽したものが、現在はかなり繁茂してきまして、夏場とかですと、ちょっと暗いイメージになっていたりとか、ちょっと近寄り難いように草が生えていたとか、そういったところは整備していかなければいけないというのが今一番の大きな課題と言ったところだと思っています。

山田市長

暗いイメージ、あと場所がわかりにくいとかありますが、音声ガイドンスはもちろん今まだないんですけど、さっき言ったように保存活用計画を作って、その後の具体の整備、これが必要だということの中に、当然その観光的な視点も入れていきながら、その中で多言語の表記とかも含めているんなガイドンスであったり、場合によってQRコードでなんか読み取りしてとかもあると思いますので、どういうふうに、先ほど話になった情報発信も含めて、どうやっていくのかだろうと思います。カフェがあるといいですけどね。

これまで雷神山古墳の価値、魅力はどういうところか、またこれからこの価値、魅力をどう活用していくかということでお話いただきましたけど、皆さんの方から、さらにということであれば、何かありますか。

洞口委員

かなり木は込み入っているのですか。

鴫崎歴史民俗資料館長

夏場とかだと結構込み入っているところもありますし、根っこも大分広がってきたりして、側溝などに悪さしたりとかというところも出てきているので、そういったところが課題です。

洞口委員

虫は、夏場は結構出るのでか。

鴫崎歴史民俗資料館長

虫もおりますし、あと蜂とかですね、そういった問題もあります。

山田市長

一度、教育委員の皆さんで現地を見ていただいではどうでしょうか。

隠れようと思えば隠れられる植栽がいっぱいあり、それが何となく暗い、怖いイメージがあったりします。

瀧澤教育長

この間のマルシェのとき様子見ていたら、思っていたよりも人が来ていました。多くの人がいらっしゃって、店も何店か出ていて、本当に常設のカフェがあればいいのですが。

ほとんどの人がやっぱり古墳の周りを歩いてみたり、上に登ってみたりしているので、整備すれば市内の人もだし、市外からも人が来るんじゃないかなと思うので、今年度、保存活用計画案を策定していきますが、具体的に整備とか活用となると、いろいろクリアしなきゃいけない課題もあると思います。教育委員のご意見も聞きながら、市長にまたお願いをしながら、計画を実現させていきたいなと思っております。

山田市長

実際、整備するとなると文化庁の高い壁を越えながらやっていくこととなる。今年もマルシェはやるのか。

鴫崎歴史民俗資料館長

今年はまだやったので、来年ということになります。

山田市長

キッチンカーの許可は誰の権限で許可しているのか。

鴫崎歴史民俗資料館長

一緒に共催でやっているマルシェの主催者の方に呼んでいただきました。

山田市長

場所は入ってきて大丈夫なのか。

鶯崎歴史民俗資料館長

場所は目的外使用で出していただいております。

山田市長

それを出せば可能なんですね。

鶯崎歴史民俗資料館長

キッチンカーは駐車場の方に入っており、上はマルシェの販売のテントだけなので、古墳には影響のないようにしております

山田市長

わかりました。そういう活用も含めて、これから進めていただければと思います。

あと、よろしいですか。

では、事務局におかれましては、本日の協議内容を十分に検討していただいて事業に取り組んでいただきたいと思います。

それでは協議については以上とさせていただきます。

本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

次に4、その他ですが、事務局に何かございますか。

山家教育部次長兼教育総務課長

特にございません。

山田市長

無いようでありますので以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

10 終了時刻

午前 11 時 02 分